



たてやま

おらがんまつり

2015.3 No.27

南総祭礼研究会



地域の紹介

新井地区は市域の中央部に位置し、近世以降安房地方の中心地として、また館山城の城下町として栄えた館山地区にあり、下町と長須賀地区に隣接し、江戸時代は真倉村の浜方集落で新井浦と呼ばれていた歴史深い地区です。

現在も新井海岸には館山市立博物館分館などを含む「みなとオアシス」渚の駅たてやまや、日本一の長さを誇る「館山夕日棧橋（館山港多目的観光棧橋）」など館山市を代表する多くの施設があります。

館山市館山地区

- 【御舟の大きさ等】
- 全長:8.3m
 - 全幅:2.07m
 - 全高:3.76m
 - 後部七つ道具含む高さ:4.26m
 - 総重量:2,360kg
 - 彫刻:後藤喜三郎橋義信

あらい

〈新井〉



近藤 画



勇壮な鷲と明神丸の舟先



隅々まで美しさにこだわった明神丸の後姿

初めて御舟が造られたのは明治二十年代と言われており、紅い御舟のいわれは遠く律令時代、海魔調伏を願い紅く塗ったとされています。里見時代末期に商港となった高之島湊は、新井の島と呼ばれた高ノ島、沖ノ島と新井浦に挟まれた海域で、里見水軍の拠点にもなっており、そのお舟手がいたことから軍舟と呼ばれています。百年以上もの間小規模の修復を重ね、近年では平成五年に大修復を行い更に年番の平成十八年には漆の塗り替え、提灯の新調などを行い、代々受け継がれ大切にされてきた御舟です。御舟先端にクロスして飾り付けられている毛槍は白熊の毛が使われており、朱塗りは本漆で、また御舟の特徴である後部の薙刀、陣笠、吹流し、纏、番傘、諏訪棍の神紋の赤旗、明神丸の白旗の七つ道具が自慢です。

平成二十年二月二十五日に館山市無形民俗文化財に指定された「新井の御船歌」は古くは諏訪神社の祭礼で演じられていました。現在は二月上旬に行われる初午での歌い初めと、八月一日、二日に行われる館山地区の祭礼の際に多くの場所で演じられています。その他にもNHKの民謡番組や安房の伝統芸能まつり、里見氏関連行事など、多くの出演依頼があり、皆に愛される自慢の御船歌です。また、昭和四十七、八年頃に「新井船歌保存会」が組織されるまでは、御船歌は区の長男にだけ教えるという形での継承形態が残っており、深い伝統を感じさせます。

自慢の御舟「明神丸」と「新井の御船歌」